

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立戸祭小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	100人	算数	100人	理科	100人
第5学年	国語	99人	算数	100人	理科	103人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

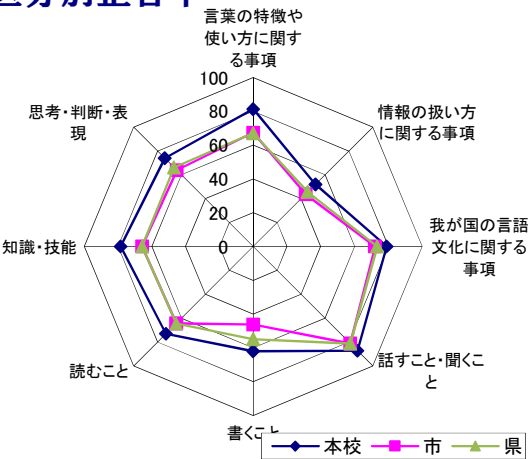
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立戸祭小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	81.3	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	52.0	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	79.0	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	87.3	81.2	81.2
	書くこと	62.0	46.2	54.9
観点	読むこと	73.1	64.3	64.5
	知識・技能	78.5	65.7	65.7
	思考・判断・表現	73.9	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

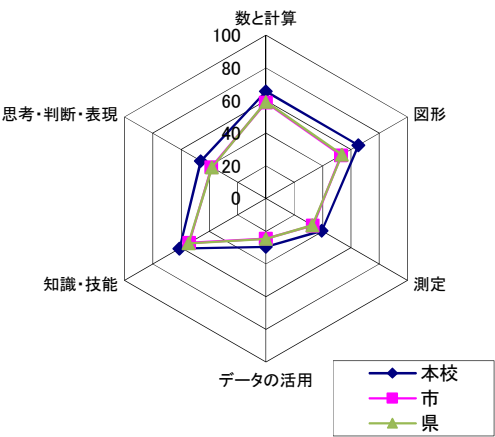
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○校内正答率は81.3%で、県の平均正答率を14.2ポイント、市の平均も13.9ポイント上回った。 ○漢字の読み書きについては、いずれも県や市の平均を上回った。3年生の漢字はしっかり身に付いている児童が多いと見られる。 ●ローマ字については、県や市の平均を上回ってはいるが、平均正答率が全体の67%と定着しきっていないことがうかがえる。	・今後も朝の学習や家庭学習で国語の教科書の復習ページ、A・Bドリル等を使用しながら、既習の漢字を繰り返し練習する機会を設け、継続して定着を図っていくようにする。 ・新出漢字を指導する際は、漢字の意味や熟語に触れながら、意欲的に学べるようにする。 ・3年生からローマ字の学習が始まったこともあるが、日常生活でローマ字を読む機会を意識したり、ICT活用の中で、タイピング練習をしたりして、さらにローマ字の習得を図れるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	○校内正答率は52.0%で、県の平均正答率を6.3ポイント、市の平均は8.2ポイント上回った。	・漢字辞典の使い方と国語辞典の使い方を比較しながら復習をしたり、国語のみならず、ほかの教科や家庭学習での国語辞典の活用を働きかけたりして、正しい使い方が身に付くようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	○「漢字のへんかつくりを正しく組み合わせて既習の漢字を作ることができる」設問について、校内正答率が県を5.6ポイント、市を6.9ポイント上回った。	・今後も国語の「漢字辞典の使い方」の学習時に部首索引を活用する機会を多く設ける。 ・新出漢字を指導する際には、部首の位置や名前などの漢字の成り立ちを意識させ、継続して知識を高める指導を行う。
話すこと・聞くこと	○校内正答率は87.3%で、県の平均正答率より6.1ポイント、市の平均も6.1ポイント高い。 ○「相手に伝えるように、自分の考えを、理由を挙げながら話すことができるかをみる」問題では、ほとんどの児童が自分の考えや理由を明らかにして記述することができた。 ●「司会者の話し方の工夫を捉えることができるかどうかをみる」問題では、2割の児童が誤答であった。話す・聞くの基本的なことは理解しているが、発展的な問題に対しては課題が見られる。	・聞き手に要旨がしっかりと伝わるように話の内容を整理したり、言葉を吟味したりして話すことを意識させる。 役割に応じた話し方の工夫が理解できるようにするために、話し合い活動において、役割分担をして司会者を経験する機会を設ける。
書くこと	●校内正答率は、県・市いずれも上回ったが、62%と低い。 ●4題すべての問題について3割の児童が無解答であった。これは問題文全てに目を通さずに解答している可能性も考えられる。	・自分の考えや理由を表現する機会を授業中や宿題等で繰り返し取り組ませることを継続し、書くことへの抵抗感を下げながら確かな文章力を高められるようにする。 ・段落をつける意味や書き方等を指導し、正しい書き表し方を身に付けながら表現する力を育てる。 ・文章は必ず最後まで読んでから問題に取り組むことを徹底していく。
読むこと	○「登場人物の気持ちとして、文中の空欄に適するものを選ぶ」問題では、校内正答率は95.0%と非常に高い。人物の気持ちについては、叙述を基に捉えることができた。 ●「登場人物の行動の理由を説明した文として適するものを選ぶ」問題では、誤答の割合は5割であった。内容を読み取る問題でも場面の様子を読み取ることにについては課題が見られた。	・物語や説明文のどの段落でどんなことを言っているのか理解が図れるよう、文章の意味を考えさせたり、段落ごとの主旨を要約させたりして読む力を養っていく。

宇都宮市立戸祭小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.6	58.9	59.2
	図形	65.3	53.0	53.7
	測定	39.5	33.1	32.6
	データの活用	29.5	24.4	24.6
観点	知識・技能	61.1	54.3	54.7
	思考・判断・表現	46.1	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

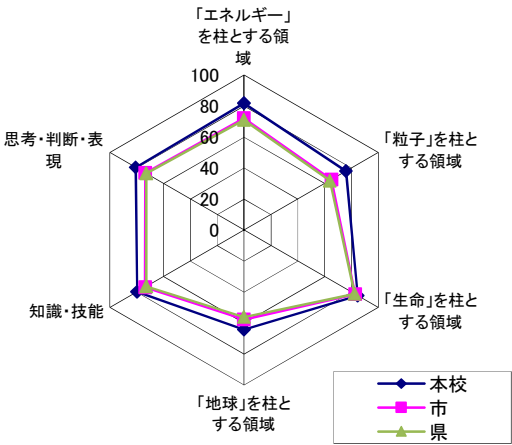
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、市の平均を6.7ポイント上回っている。 ○整数-小数の計算に関する問題では、市の平均を19ポイント上回っている。計算問題に関しては、全ての問題で市の平均を大きく上回っている。 ●乗法の計算の仕方を理解し、説明することができるかどうかをみる問題の正答率は12%であった。基本計算ができる一方で、考え方を説明する問題での正答率が低くなっている。	・社会科の人口や生産量などの数字と関連させるなど、他教科の学習と関連させながら指導を進める。 ・朝の学習の時間を活用し、単純な計算をする機会を細かく取り入れ、計算能力の向上を目指す。
図形	○平均正答率は、市の平均を12.3ポイント上回っている。 ○半径と直径について理解し、球の性質を利用し長さを求めることができるかどうかをみる問題では、市の平均を14ポイント上回っている。 ●円の性質を利用して、正三角形を作図することができるかどうかをみる問題では、正答率が54.0%であった。作図の技能に関しては定着に個人差があり、課題が見られる。	・具体物を提示しながら、実感をもって学習に取り組めるよう目指していく。 ・コンパスや定規の使い方や利点を確認し、今後の学習で効果的に取り入れる。
測定	○平均正答率は、市の平均を6.4ポイント上回っている。 ○地図から道のりを読み取り、2つの道のりの差を求めることができるかどうかをみる問題では、市の平均を12.5ポイント上回っている。 ●重さの単位を理解し、合計の重さの大小を比較することができるかどうかをみる問題の正答率が28%であった。単位への理解に課題が見られる。	・メモリの読み方を確認し、正しく読み取れるように練習問題に取り組む。 ・重さの単位について、イメージをもちやすいよう具体的な場面を提示しながら学習を進めていく。
データの活用	○平均正答率は、市の平均を5.1ポイント上回っている。 ○適切な棒グラフから、示された値を読みとることができるかどうかをみる問題では、市の平均を11.2ポイント上回っている。 ●適切な棒グラフを選んだり、特徴と利点を理解して活用したりする問題への正答率がどちらも13.0%となっており、データの活用に課題が見られる。	・得られた情報をもとに、なぜそうなのか、どうすればよいのかなど自分の考えを表現する時間を設け交流する時間を多くとっていく。 ・自分の考えを簡潔に説明するために、国語などの他教科との関連を図り、児童に周知していく。

宇都宮市立戸祭小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	81.8	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	76.0	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	84.6	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	64.3	57.7	56.2
観点	知識・技能	79.7	73.8	72.8
	思考・判断・表現	80.7	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○「手でにぎるとトライアングルの音が止まる理由を答える」設問では、正答率が95.0%と高く、県平均を11.2ポイント上回っている。 ●「実験の結果をもとに日光を集めたところの大きさを選ぶ」設問では、県平均を上回っているものの、正答率は66.0%となっている。	・様々な実験を行う中で、実験の目的に応じて観察したことを記録しながら、身近な生活の中の現象と結び付けて考えられるようにする。
「粒子」を柱とする領域	○「実験の結果について正しいものを選ぶ」設問では、正答率が97.0%と高く、県平均を10.3ポイント上回っている。 ●「体積が同じでも種類によって重さが違うことを答える」設問では、県平均を上回ったものの、正答率が55.0%であった。	・実験や観察に対して興味・関心をもって取り組んでいる様子が見られるため、今後も年間指導計画に沿った着実な実施を心がけていく。
「生命」を柱とする領域	○「植物の体のつくりの共通点を選ぶ」設設では、97.0%と高い正答率となっている。 ●「虫めがねの正しい使い方を選ぶ」設問では、正答率が45.0%と、県平均を9.7ポイント下回っている。	・実験器具の正しい使い方を定着させるために、ICT機器などを活用しながら、児童の理解を深める。
「地球」を柱とする領域	○「かげのできる向きとかげふみで逃げる方向について選ぶ」設問では、正答率は79.0%と、県平均を9.4ポイント上回っている。 ●「方位磁針の正しい使い方を選ぶ」設問では、県平均を上回っているものの、正答率が48.0ポイントであった。	・今後も継続的に既習事項に触れながら、授業を進めていくと同時に、単元ごとにポイントとなるキーワードを取り入れながらノートにまとめるなど復習を奨励し、知識の定着を図る。

宇都宮市立戸祭小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の予習をしている」について肯定的回答をした児童の割合は、72.8%で、市の平均を15.1ポイント上回っている。「家で、学校の授業の復習をしている」についても肯定的回答をした児童の割合は、71.8%で市の平均を8.1ポイント上回っている。また、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」、「勉強していて、不思議だな・なぜだろうと感ずることがある」、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」についても肯定的回答をした児童は、県と市の平均を共に上回っており、学習への興味・関心、探求心が高い児童が多いと考えられる。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」について肯定的回答をした児童の割合65.1%で、市の平均を13.3ポイント上回っている。また、「先生は学習のことについてほめてくれる」についても肯定的回答をした児童の割合は96.1%で、市の平均を7.8ポイント上回っていることから、意欲的で発表が得意な児童が多く、先生は自分のことを見ててくれているという安心感をもって学習に取り組んでいることが考えられる。

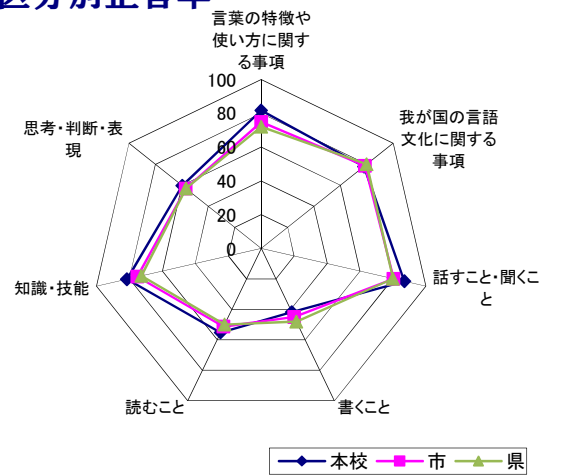
○「家の人としょ来のことについて話すことがある」についての肯定的回答をした児童の割合は、82.5%で、県の平均を13.6ポイント上回っている。また、「家の人と学習について話をしている」について肯定的回答をした児童の割合は、85.4%で、県の平均を7ポイント上回っており、将来へのビジョンが学習意欲につながっている児童が多いことや、家庭での児童への関わりがきめ細やかであることが考えられる。今後も児童の願いをよく理解し、よさを生かした指導をしていきたい。

●「自分はクラスの人役に立っていると思う」の肯定的回答率は64.1%で、県の平均を4.1ポイント下回っている。また、「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定的回答をした児童の割合は、67.0%で、県の平均を11.4ポイント下回っていることから、自分の力に自信がもてず、分からないことや困った状況において自分の考えを素直に表現することに苦手意識をもつ児童がいることが考えられる。学習への興味・関心の高さや、積極的に発表できる態度を生かし、児童の実態に応じて褒めたり励ましたりする機会を増やしなが、自己肯定感を高めたり、自分のことを安心して話し相談できる雰囲気づくりに努めたりしていきたい。

宇都宮市立戸祭小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	81.7	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	77.8	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	86.9	80.4	80.0
	書くこと	41.7	45.1	48.0
	読むこと	55.3	51.3	50.0
観点	知識・技能	81.4	75.2	72.8
	思考・判断・表現	59.8	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

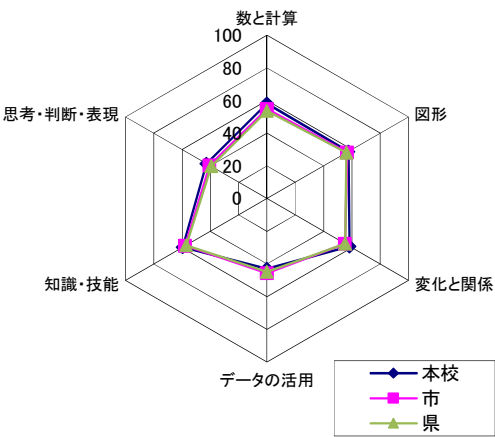
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○平均正答率は81.7%で、県の平均を9.7ポイント、市の平均も6.9ポイント上回った。 ○「漢字を書く」問題においては、正答率は県と市の平均を上回っている。第4学年の漢字の書きは定着している様子が見られる。 ●言葉の学習の連用修飾語についての理解は、県の平均を5ポイント、市の平均は2.3ポイント下回っている。	・学級活動の時間を活用し、児童が興味を持ちやすい議題を選び話し合いができる場を設ける。 ・意見の整理のまとめ方で、学級の意見を反映する方法を考え、みんなが納得できる結論を出す、練習する機会を増やす。
情報の扱い方にに関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	●「慣用句の意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかをみる問題において、平均正答率が77.8%で、県の平均を2.1ポイント下回った。	・ことわざや慣用句などの意味を調べる活動を取り入れ、それらを用いることのように気付き、積極的に使うことができるようにする。 ・ICT機器だけでなく、辞書や図書の本を活用する機会を増やす。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は86.9%で、県の平均を6.9ポイント、市の平均を6.5ポイント上回った。 ○「司会の役割を果たしながら話し合い、考えをまとめる」問題では、県の平均を9.3ポイント、市の平均を9.9ポイント上回った。	・学級活動の時間を活用し、児童が興味を持ちやすい議題を選び話し合いができる場を設ける。 ・意見の整理のまとめ方で、学級の意見を反映する方法を考え、みんなが納得できる結論を出す、練習する機会を増やす。
書くこと	●平均正答率は41.7%で、県の平均を6.3ポイント、市の平均を3.4ポイント下回った。 ●どの問題においても県・市の平均を下回っており、他の領域と比べると苦手としている児童が多い傾向が伺える。	・テーマや字数など、与えられた条件で文章を書く機会を設けることで、書く活動に日常的に取り組んでいく。 ・振り返りの時間を活用しながら、理由を挙げて自分の考えを書く文章の訓練を積み重ねていく。 ・日記の課題を通して、文章表現する力を養う。
読むこと	○平均正答率は55.3%で、県の平均を5.3ポイント上回った。市の平均も4ポイント上回っている。 ○「場面の様子について、叙述をもとに捉える」問題では、正答率が82.8%と最も高く、県の平均を11.3ポイント上回っている。 ●「叙述を基に文章の内容を捉える」問題では、他の項目と比べると正答率が低い。	・説明的文章の読解においては、中心となる語や文に着目して要点をまとめたり、小見出しをつけたりして、内容を理解させていく学習を継続して丁寧に行っていく。また、段落ごとの読み取りをした後、段落相互の関係も捉えられるようにしていく。 ・文学的文章の読解においては、登場人物の気持ちを表す語や文を見つけて、それらをもとに気持ちを考えたりする学習を継続して行っていく。 ・読書を推奨したり、読み聞かせをしたりすることで、読むことに対する抵抗を無くす。

宇都宮市立戸祭小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	58.2	54.9	53.7
	図形	57.5	56.6	56.1
	変化と関係	58.3	55.1	55.2
	データの活用	43.0	45.5	44.8
観点	知識・技能	59.5	57.8	57.2
	思考・判断・表現	42.9	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

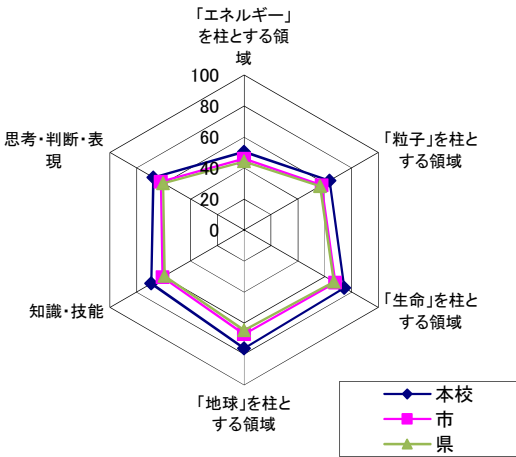
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本校の正答率は、県の平均正答率を4.5ポイント上回った。特に、小数の計算や小数のしくみの問題では、県の平均正答率をおよそ8ポイント上回り、小数のしくみを理解している。 ●「83兆は83億の何倍か答える」問題や「除法の性質を利用した計算のくふうについて説明する」では、30%台と本校の正答率は低い。	・数が大きくなっても、数のまとまりで見られるよう、低学年の頃から具体物操作などを通して数の理解を深められるようにしたい。 ・数のきまりや性質については、きまりとして理解できるまで多くの問題に触れたり、性質を覚えられるまで何度も問題を解いたりできるようにする。
図形	○本校の正答率は、県の平均正答率を1.4ポイント上回った。「直方体の面に垂直な辺をすべて答える」問題では、県の平均を12.4ポイント上回った。 ●「平行四辺形の作図をする」問題では、県の平均正答率を12.7ポイント下回った。図形の作図に課題が見られる。	・図形の学習では、作図の手順を理解できるまで、一人一人丁寧に見取る必要がある。図形の性質を理解し、コンパスや分度器の使い方も正しくできないと作図できないため、授業の中で書く活動の時間を多く取り、細かく見取っていく。
変化と関係	○本校の正答率は、県の平均正答率を3.1ポイント上回った。「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す。」問題では、県の平均を9.2ポイント上回った。 ●「割合を使った比べ方について説明する。」問題では、本校の正答率は26ポイントと低く、約3割の児童が無解答であった。	・具体物を用いて見通しをもたせたり、イメージをさせたりする活動を取り入れ、算数的な感覚を養っていく。 ・他者に分かりやすく説明する力を身に付けるために、普段から数値と数値を関連付けて考えたり、数量の関係が簡潔・明瞭に伝わるような表現方法を工夫する活動を積極的に取り入れていく。
データの活用	○「表の数が何の数を表しているかを答える。」問題では、本校の正答率は65ポイントでデータの活用問題の中では正答率が高かった。 ●本校の正答率は、県の平均正答率を1.8ポイント下回った。「グラフから読み取った数を示し、変化の様子を説明することができる。」という問題では、本校の正答率は11ポイント低く、およそ6割の児童が無解答であった。	・計算問題だけでなく、目的に応じてデータを集めて分類する問題や、データの特徴や傾向に着目して問題を解決する機会を増やしていく。 ・課題意識をもち、資料内容理解ができるように、学習体験(社会科や総合的な学習の時間など)との関連を図りながら、普段の生活の中で、データの活用を行う場面に多く触れるようにする。

宇都宮市立戸祭小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	50.5	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	63.7	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	74.6	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	76.3	67.2	64.6
観点	知識・技能	69.2	60.8	59.2
	思考・判断・表現	67.6	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○平均正答率は50.5%で県や市の平均を上回った。 ○「並列つなぎの名称を覚える。」について問題では、平均正答率が67.0%だった。市の平均より6.7ポイント上回った。 ●「簡易電流計の針のふれ方」についての問題では、県や市の平均を上回ってはいるが、平均正答率が40%を下回っている。	・今後も継続的に既習事項に触れながら授業づくりを進めていくと同時に、定期的に自主学習等での復習も奨励し、知識の定着化を図る。 ・実験の目的に応じて観察したことを記録しながら、身近な生活の中の現象と結び付けて考えられるようにする。
「粒子」を柱とする領域	○平均正答率は63.7%で県や市の平均を上回った。 ○「水をあたためたときの結果を選ぶ」では14.6ポイント、「あわの正体と考えた理由を答える」についての問題では、12.9ポイント県の平均を上回った。 ●「空気と金属をあたためたときの体積の変化の大きさ」についての問題では、無解答率が8.7%だった。	・今後も継続的に既習事項に触れながら授業づくりを進めていくと同時に、定期的に自主学習等での復習も奨励し、知識の定着化を図る。 ・実験や観察の結果を考察させたり、結果から考えたことを自分の表現で文章化させたりする活動をより一層取り入れていく。 ・日常生活と関連させて、身近な問題として考えられるように指導していく。
「生命」を柱とする領域	○平均正答率は74.6%で県や市の平均を上回った。 ○各設問全てで県や市の平均を上回っている。 ●「季節の順にならべたイチョウの記録」についての問題では、平均正答率が41.8%だった。県や市の平均を上回ってはいるが、平均正答率が50%を下回っている。 ●「腕をのばした時の筋肉のようす」についての問題では、無解答率が2.7%となっていて、これは県や市の無解答率を上回っている。	・今後も、普段の生活と関わりのある関連項目について積極的に紹介し、児童の理科的興味・関心が高まるように指導の充実を図る。 ・季節の変化に着目し、それらを関連付けて調べたり、まとめたりする活動を通して植物の成長について理解を図る。 ・実際に腕で物を持ち上げたり、他の動物の体のつくりや体の動き、運動を観察したりすることを通して、人の体の骨や筋肉の働きについて理解を深める。
「地球」を柱とする領域	○平均正答率は76.3%で県や市の平均を上回った。 ○「水蒸気」についての問題では、県の平均を15.9ポイント上回った。 ○「気温のはかり方」についての問題では県の平均を23.2ポイント上回り、「雨の日の気温の変化の様子」についての問題では県の平均を18.6ポイント上回った。 ●県の平均を15.9ポイント上回った「水蒸気」についての問題での無解答率が7.8%だった。	・今後も、普段の生活と関わりのある関連項目について積極的に紹介し、児童の理科的興味・関心が高まるように指導の充実を図る。 ・実験や観察後の考察の時間を十分に確保して理解を深めるとともに、普段の生活との結びつきについても考えることができるようにする。 ・結果から分かったことを自分の表現で文章化させたりする活動を取り入れていく。

宇都宮市立戸祭小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の予習をしている。」について肯定的回答をした児童の割合は、61.0%で、市の平均を8ポイント上回っている。「家で、学校の授業の復習をしている。」についても肯定的回答をした児童の割合は、75.0%で市の平均を12.8ポイント上回っていて、家庭での学習習慣の定着がみられる。

○「勉強していて、不思議だな・なぜだろうと感ずることがある。」、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」についても肯定的回答をした児童は、市と県の平均を共に上回っており、学習への興味・関心、探求心が高い児童が多いと考えられる。

○平日のテレビ、ゲーム、スマホ、インターネットの利用時間は、県よりも少ない。このことは、睡眠時間が少ない児童の割合が県に比べて少ないことと関係していると考えられ、今後も規則正しい生活習慣が乱れないよう児童や家庭への働きかけをしていきたい。

○自分にはよいところがあり、自分のよさや能力を社会に役立てたいと考えている児童の割合が県に比べて高く、自己肯定感が高い児童が多いと考えられる。学校では、今後も認め合う場や活躍の場を多く設けていきたい。また、家の人と学習や将来について話したり、家のルールを守って生活したりしている児童の割合も県よりも高く、家族の一員として家族を大切に思い、助け合っていこうとする姿勢が伺える。

○「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている。」「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている。」に対して肯定的回答をしている児童の割合がいずれも市と県を上回っている。積極的に学習に取り組み、分からないことは調べようとする意欲と主体性の成長が伺える。

○「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている。」「地いきや社会で起こっているできごとに関心がある。」「新聞を読んでいる。」に対して肯定的回答をしている児童の割合がいずれも市と県を上回っている。自ら情報を収集し、理解しようとする主体的な学びへの姿勢が伺える。インターネット上の情報には、信頼性の低いものも多くあるため、情報リテラシーの育成が重要になると思われる。

●「今回の調査で、国語の問題をとく時間は十分でしたか。」「今回の調査で、算数の問題をとく時間は十分でしたか。」に対して肯定的回答をしている児童の割合がいずれも市と県を下回っている。児童が十分な解答時間を確保できていないことを示唆しており、深刻な課題といえる。問題形式ごとの解答率を分析することで、児童が苦手としている問題形式を明らかにし、具体的な支援策を検討する必要がある。

●「社会の学習は好きですか。」「算数の学習は好きですか。」「総合的な学習の時間の学習は好きですか。」に対して肯定的回答をしている児童の割合がいずれも市と県を下回っている。児童の興味・関心に合わせた教材や指導方法を開発・導入するなどして、学習の目的や目標を明確にし、児童が達成感を味わえるような学習活動を取り入れる必要がある。

宇都宮市立戸祭小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自ら考え、伝え合い、理解し実践する児童の育成 ・児童が納得と達成感を得られるための教師のコーディネート ・すべての児童が発言できる学習形態の工夫	・全員が理解できるように、課題提示を工夫し、学習の見通しをもたせ、授業で何をすれば良いのかを明確にした授業を展開する。 ・伝え合う活動の充実を図り、児童が学んだことを自分の言葉に言い換える場を設け、考えを深められるようにする。 ・「相手への伝え方」のレベル表を作成し、伝えることを児童に意識させるとともに、友達の意見や考えを聞き比べ、考えを深める場となるよう指導する。 ・朝の学習時間に「計算オリンピック」を行い、基礎的・基本的な力を養う。	・国語、算数、理科において、市の平均正答率より高い。 ・「授業でめあて・ねらいが提示されている」「ノートにまとめている」の平均肯定割合は約9割、「まとめ・振り返りを行っている」「話し合いに進んで参加している」の平均肯定割合は約7割であり、良好であった。 ・「勉強して、おもしろい、楽しい」は約8割、「先生は、学習のことについてほめる」は約9割であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・記述式の解答問題やデータ等を読み取る問題が苦手である。	・授業の中で、正答かどうかだけでなく、理由や根拠等を明らかにすることを意識できるよう指導する。 ・類似の学習課題において、スモールステップで指導を図る。	・短答式の解答だけでなく、文章などを書く解答方法も意図的に授業に取り入れる。 ・正答か否かに関わらず自分で考えてそれを表現することの重要性を、全職員同一歩調で児童に伝えていく。 ・友達の意見を、最後まで共感的に聞くことを徹底していく。